

81 南面及び東面の土居葺の状況

東南より見る。土居葺は大正二年の修理で、雨漏り防止のため導入された。この両面は、瓦が乱れていたにもかかわらず破損が少なく、良い状態であった。棟積の下には大正二年の修理で銅板を敷き込んでいた。



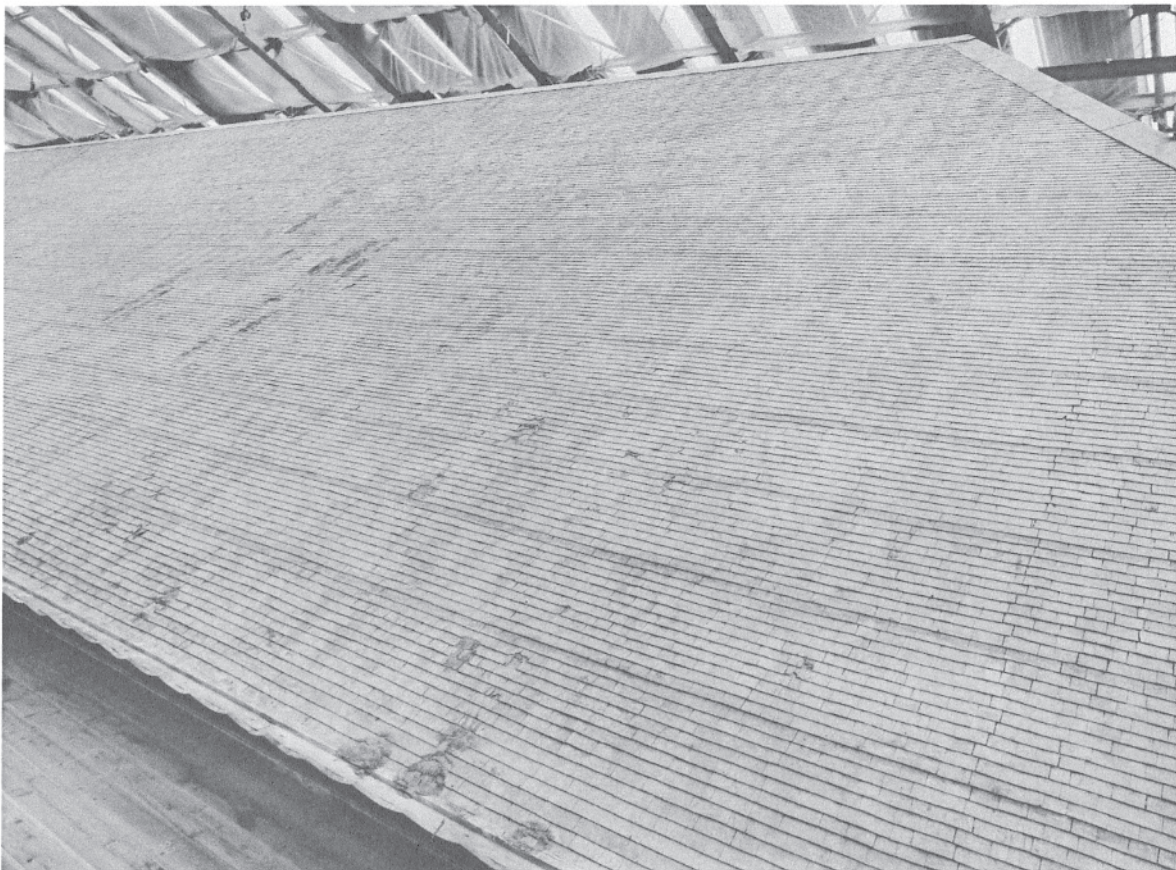
82 北面及び東面の土居葺の状況

東北より見る。北面も瓦が乱れていた割には土居葺は健全であった。



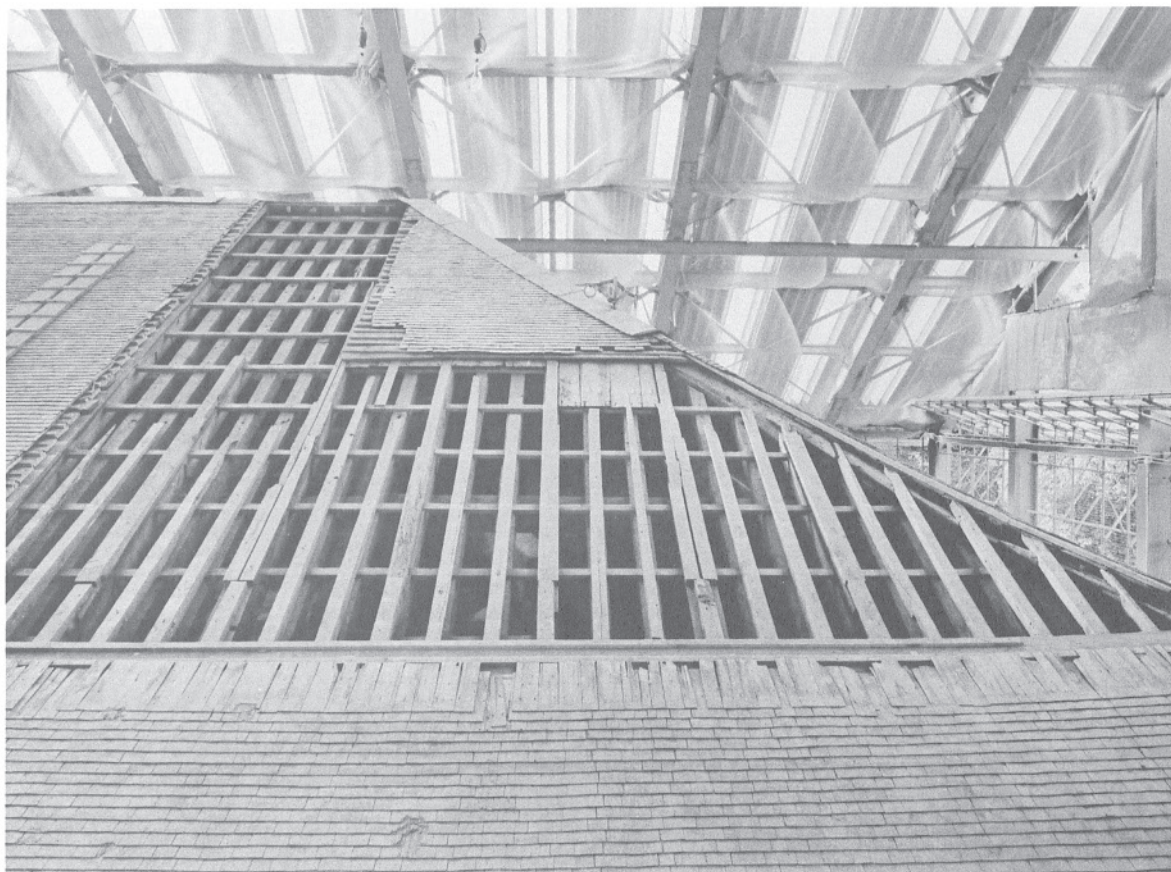
83 西面中央の土居葺の状況

西より見る。大正修理で製作された補足瓦の下は蒸れ腐れが多く見られた。瓦の様子から見ても雨漏りではない。平瓦は乱れもなく、しっかりしていたため密閉状態を生み、土居葺を腐らせていた可能性が考えられる。



84 東面北寄りの土居葺の状況

東北より見る。江戸時代以前の瓦が葺かれていたが、瓦が割れて雨漏りしていた場所以外は蒸れ腐れもなく、良好な状態であった。



85 野地板の部分解体の状況

東面北端の一部を小屋組の調査のために野地板まで解体した。野地板は、まず地垂木上に流し板に張り、その上にさらに鉋葺に横張りされていた。



86 西面土居葺解体

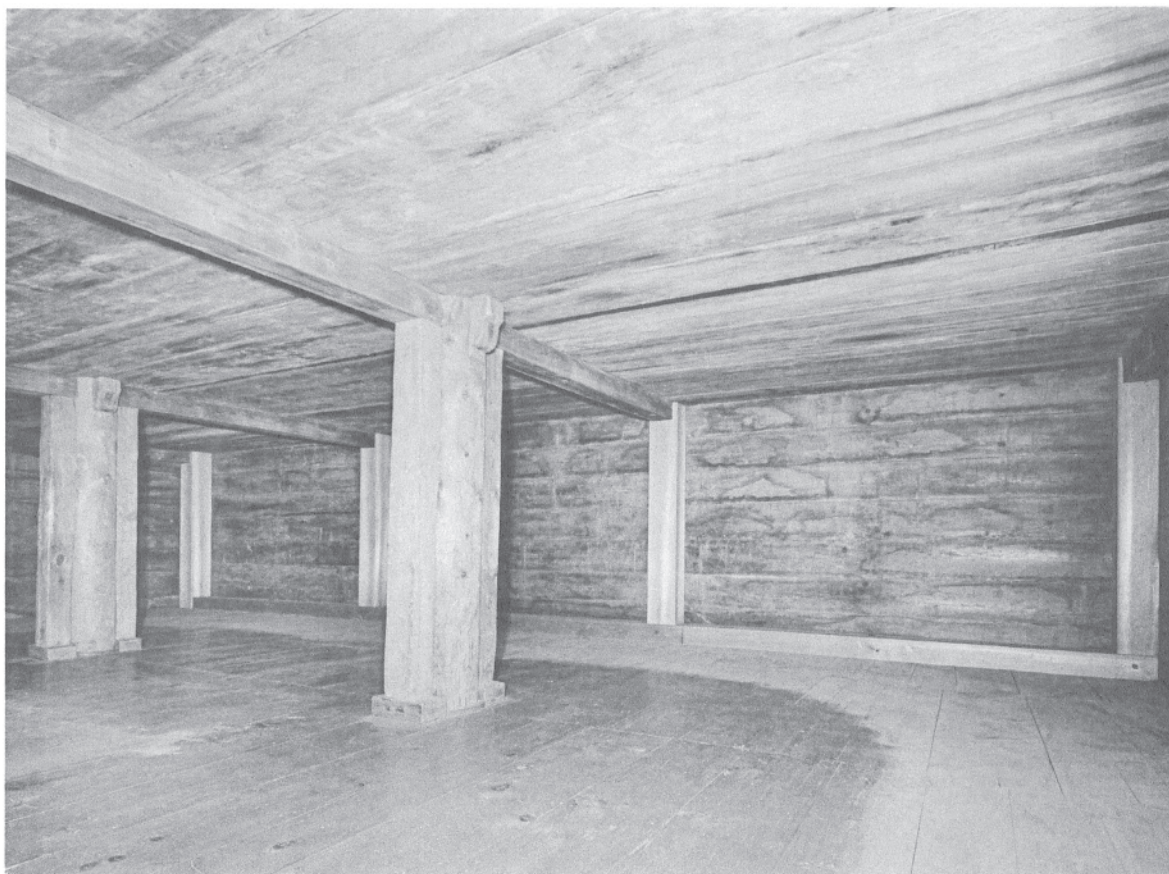
西北より見る。西面は土居葺の腐朽が著しかったため、広範囲にわたって葺替えた。



87 ガラス戸付陳列棚解体後の南倉一階北面  
西南より見る。床面の色が違う壁際にガラス戸付陳列棚があった。四天柱に添柱をして梁状に材を渡し、二階の床板を受けている。



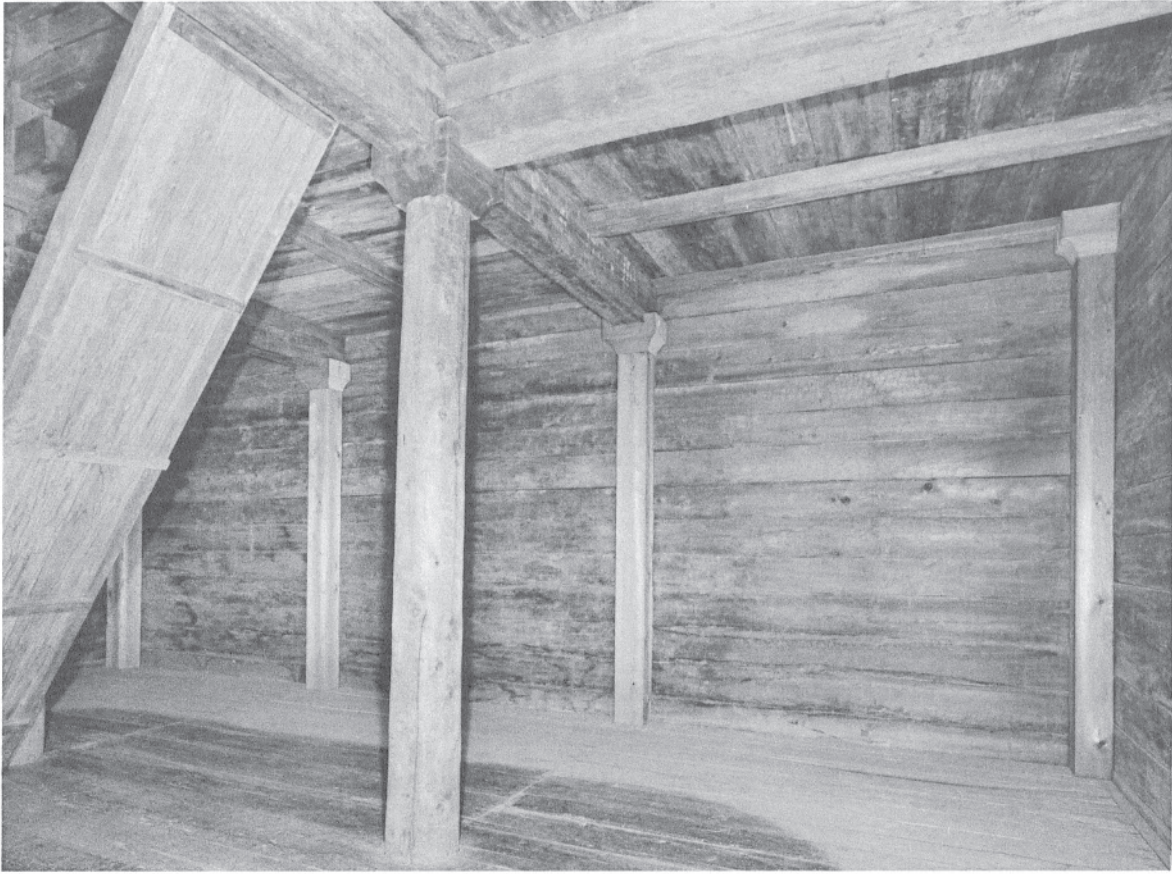
88 ガラス戸付陳列棚解体後の南倉一階南面  
北より見る。奥に見える壁際の内部柱は大正修理時の材である。校木に雨染みが見える。



89 ガラス戸付陳列棚解体後の南倉一階西面  
東北より見る。壁際に入る地覆は大正二年の修理で入れられたもので、側の東柱上の桁行に入る台輪とボルトで止められる。



90 ガラス戸付陳列棚解体後の南倉二階北面及び東面  
西南より見る。隅と壁際の内部柱は、大正二年の修理で取り替えられたものである。



91 ガラス戸付陳列棚解体後の南倉二階西面  
東北より見る。



92 ガラス戸付陳列棚解体後の南倉二階南面  
東北より見る。